

一七七頁)としたる等の俯訓は聊か目障りなり。(廣文堂發行、價一・二〇〇〔中村〕)

●Mc. Laren. A Political History of Japan during the Meiji Era. 1867-1912. London. 1916

本書は嘗て慶應義塾大學の政治學の教授たりしマック・ラーレン氏の著はすところにして、慶應三年より明治四十五年に至る間を主とし、我國政治の變遷を述べ、政界の事情と政黨の消長を明らかにせんと試みたるものなり。蓋し著者は日本が日露戦後の滿韓の經營、歐洲大戰に際し協約側加盟と青島の攻略、並びに其後引續き行はれし不可思議なる對支交渉等に於て歐米外交界の疑惑を買ふこと多きを見、此處に本書を著はして我國内の事情、殊に元老、軍人政治家の跋扈及び其外交方針、並びに國民的野心の由來を叙し以て日本の政治と政策との意味を正しく判斷するの料に資せんとしたるものにして、近時日本が其内治外交共に無定見の行動多きを加ふを憂ひて、日本國民に忠告するところあらんとすると同時に、其救済策は只懸つて偏狹なる愛國心を抑制するにありとする著者の宿論を吐露したるところ本書記述の主眼たる如し。

本書第一編を改革時代とし、第二編を議會政治時代とす。第一編に於ては、其初めに明治維新の由來を叙し、王政復古の大業は二

個の異なる思想によりて導かれ来りしものにして、一は保守派の復古思想、一は過激派の維新思想なりしが、時局の發展につれて保守派の思想は敗れ、三千萬の國民を有する十九世紀中葉の社會と政治とを、第七世紀の小部族的政治に還元せしむるの不可能なること周知せらるゝに至り、過激派の改革思想は國民を支配し爲めに急激なる變化を生ぜりとし、又維新以前の武家政治の性質を了解する爲めに特に親切なる歴史的叙述をなし、天皇と征夷將軍との關係の起原を尋れ、大化改新時代の社會狀態等を論じ、鎌倉室町、江戸幕府の對朝廷關係を詳述し、歐人渡來後の時代の記事には歐人の天皇將軍に關する觀察等を引用して此の特殊なる朝幕の關係の了解を容易ならしむることに努め、而して討幕に於ける薩長藩の功勞より元老並に軍人政治家の發生事情を明らかにせり。

第二編議會政治時代は明治二十三年の議會開設より大正二年に至るまでの内閣、議會、政黨の事情を記せるものなり。其中には已に明治十八年の天津條約が國民より外交軟の攻撃を受け、國民的野心を満足せしめざりしことより日清戰爭の由來、軍國主義、軍閥政治の勃興、日露戰爭に於ける日本の武勳を説き、戦後亞細亞大陸に於ける日本の經營を叙し、日本の野心、増大權烈となれる徑道を明らかにし、明治末年及日本の政治組織の章に於て元老と軍閥との關係及之れと民主的思潮との消長を説き、軍人政治

の強味は日本の傳來的愛國心にありて政黨の弱味は、資力缺乏之其結果よりする定見の缺如にありとす。

著者は日本の國民主義の起原及發達は明治以前の封建的精神の内にあり。維新、臺灣征討、遼東經略、韓國併合及南滿經營は皆、軍國主義の賜なり。而して其半面に於ける内治の比較的進歩せざるは國民にせりては無關心の事に屬す。政府、政治家、及び國民の間に於て日本が全世界の霸王たらずとするも尙亞細亞の盟主たり支配者たり得べしとする信念斷はず表はれ來りて軍國主義は種々の政治的組織を降伏せしめ立憲的民主的政府の要求を常に抑壓しつゝありとせり。

要するに著者は我國に在住し且つ専門政治學を以て我國大學の講壇に立ち又亞細亞協會々誌の寄稿者たりことによつて、歐米人の間に割合汎く讀まれるべきものなるべく、又我國人にせりても外人の日本の政治觀として特に日本政界の病弊を痛擊するところは他山の石として見らるべし。只日本國民の大陸及海洋洲に對する領土的野心を過大に見、往々強辯に陥るものあるは外人の日本觀の通弊たるを免れざるも、亦好箇の一讀物たるべし。(西田)

● 滿蒙經濟調查復命書 第六 關東都督府刊

滿蒙調查報告の第六編にして都督府囑託古夷好氏が舊海龍府下即ち西豊、西安、東豊、海龍、輝南及び柳河の六縣の調査にして、開海

鐵道線定線沿線及び其の附近地方に關するものなり。上下二篇に分ち上編は上記地方に亘る事項を、下篇は縣別調査を載せたり。

● 支那研究

文學博士 服部宇之吉著

大日本漢文學會が支那研究の參考書として編せし服部博士の支那に關する論文の集録なり。凡て二十三篇を收む。其の題目中主なるものは、支那人の政治思想、支那の政治と韓非子、支那國民性支那に於ける道德の危機、日本文化の支那に及ぼせる影響、支那に於ける帝王神聖主義、李悝の經濟政策及び刑法制定に就きて等にして、多くは已に博エが世に公にせられたるものながら更に其面目を一新せるものあり。附録として支那風俗雜俎を添ふ。(明治出版社發行、價二、二〇)

● 孔子及孔子教

文學博士 服部宇之吉著

此書亦大日本漢文學會の刊行に係り、服部博士の論文中孔子及孔子教に關するものを收め、凡て十五項、孔子の略傳、孔子の人格、孔子教の特質、孔孟の教義と所謂異端との別を論ず、支那國民の崇祀孔子等あり、附録として支那德教の將來、支那思想と現代思想の二編を添ふ。(明治出版社發行、價一、七〇)

● 論語年譜 二冊

文學博士 林泰輔編

本書は論語の刊行、註釋書の製作、字句の引用等事務も論語に關